



横野校長から卒業証書を受け取る卒業生(木曾青峰高校)

木曾青峰高校(横野 秀昭校長)と蘇南高校(杉村修一校長)で4日、卒業式が行われ

青峰高、蘇南高 226人巣立つ

希望にあふれ新たな道へ

た。青峰は全日制(普通科、理数科、インテリア科、森林環境科)と定時制普通科の合わせて175人、蘇南は総合学科の51人が新生活への希望を胸に、慣れ親しんだ学びやと友に別れを告げた。

青峰高の式では卒業生一人一人の氏名が読み上げられ、クラス代表が卒業証書を受け取った。横野校長は式辞で、進化論で知られるダーウィンの言葉「変化できる物が残る」を紹介し、「柔軟な発想こそが激動の社会において必要となる。校歌の『大地をおほふ樹と

ならむ』のような大きな心を持ち、多様性と寛容な心を大切に、自分が選んだ道を歩んでほしい」とはなむけの言葉を贈った。

生徒会副会長だった理数科の菊池健太郎君(18)＝大桑村＝が答辞を述べた。1年生の夏に南木曾町で起きた土石流災害で復旧ボランティアに加わった経験や、仲間と取り組んだ生徒会活動を挙げ、「行動する自分と支え合った仲間、それが高校生活で手に入れた『鍵』と振り返った。後輩たちに向けて

「困難という壁には扉

が必ずある。人生の扉「しい」と呼び掛けた。を聞く鍵を見つけてほ (向山 均)